立教大學新聞
発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
振替東京 70852
電話(983)0111(代)内線688
発行人 野口定男
毎月十五日発行

カメラ・DPE・証明書用写真
月光堂
立教大学前

立教祭 スローガン大要決まる

実行委員会案を可決

九月一二日の連絡者会議で

例年との遅れ決定の惜まれていた今年度立教祭スローガンは、夏休み直前の六月三〇日の立教祭連絡者会議において、立教祭実行委員会による原案の情勢分析の観点のみが承認されたまま、実行委原案のスローガン"祖国の明るい未来のために"が一応圧倒的多数をもって、最終的に決定され、後は部分的文法的修正を残すのみとなった。しかしながらこのスローガンの作り出された過程及びその実体をみつめる時、いかなる意味においても真の文化運動を推進させるものとなり得るかは多くの疑問といわなければならないであろう。

九月一二日の文化会所属団体、クラス委員会、体育会本部、クラス、ゼミ等五〇数団体の参加のもとに行われた連絡者会議において、はじめ実行委原案のスローガンは次の二つであった。

一、祖国の破滅への道を歩みつつあるが、われら若き力を結集し、よって築きあげよう祖国の平和を、ゆたかな学園を。

二、祖国の明るい未来のために、よび起そう誇り高き民族の心を、そして我ら若き力を結集し築きあげよう祖国の平和を、ゆたかな学園を。

またこの両方に共通のサブスローガンとしては

○学生会館、生協、体育館の早期設立、管理運営権の掌握、授業料値上げ反対。

○教育の反動化反対、学園の自治、学問の自由を守ろう。

○学生戦線の統一を実現し、民主勢力との連帯を図ろう。

○日韓会談、憲法改悪を頂点とする軍国主義復活に反対し日中国交を回復しよう。

○日本の核基地強化、原子力潜水艦寄港を阻止し、すべての核実験、核兵器を禁止し核戦争を阻止しよう。

の五つが掲げられた。

討論に先立ち、池山文化会委員長から実行委原案のスローガンの理解のために、まず"全体としてみるならば社会主義陣営はあらゆる面において、着実に発展しているし、世界の情勢も社会主義陣営に有利に展開しています"と世界状勢を分析し、さらに日本においては"軍国主義が再び私たちの前に現れようとしている。具体的にいえば資本家に無条件に従い戦争に賛成する機械としての人間を作ることです。そして文化の面では日本の伝統的文化が荒廃の危機にあり、テレビ、映画、雑誌、音楽等はまさにアメリカを中心とする文化の氾濫です。思想もない民族性もない私たちの生活を覆たかするのでない文化の氾濫です"とまた立教内においては"日本の動向特に軍国主義復活の影響が学内にはね返っていることは就職部問題、教室解放問題にあきらかである"等の若干の情勢分析の説明が行われた。ひきつづきスローガンについての実行委と各参加団体の間に論弁が行われた。即座に弁論部から「スローガン自体がサークル活動にどれだけ密着しているかが問題であり、それがスローガンに反映されなければ意味なく、参加団体の具体的な発想、企画からつくったスローガンであってほしい」との実行委原案批判とともにそれに対して"現代の文化構造を批判的に検討し主体的な現状分析と創造精神の涵養を"の対案が出された。かなり多数の意見がこの対案をめぐって出されたが、だいたいにおいて文化会本部、級委員会としては「社会情勢分析のない対案は現在われわれがなにをなすべきか明きらかでなく抽象的で対案として値しない」との原案支持をのべ、それに対し対案提出の側は「立教内の情勢をみまってもっとそれに見合ったのを」とのかなり激烈にと原案批判で原案の思想性にまで食い入るものではなかったため有効な討論になるず、また参加団体のうちこのようにかなり積極的にスローガンに接近するものはごく少数であり、大部分は消極的で無関心であり「立教祭はお祭りだから、社会に呼びかける意義などもっていません。もしそうだとしたら参加できない」との立教祭を行う意義にはほとほと疑問もあり、さらに「呼びかける」「長すぎる」「"祖国の未来"はよいが"民族の心"はどうだろうかい」との原案修正案にしても、既に承認された情勢分析の観点をなげなしにしてしまうものであり修正案としての意味をもつものではなかった。なんらまとまりのない異論が交錯することなく互ちがいに出された後、6月の休憩があり原案は二つのスローガンのうち「祖国の明るい未来のため云々」一本にしぼられ、対案は一応とりのそいて原案が採決されることになった。出席団体数と採決数があわず、一時混乱したが、結局原案は全面支持三十五、部分的修正九、全面的否定五、保留六をもって可決された。採決後は部分的修正意見を考慮し、実行委員会を開いて討論し、十六日以後再び連絡者会議を開き最終的に発表することとなり午後五時に閉会した。

原水禁大会報告会開かる

"三県連は分裂策動"

九月十二日、午後三時より三五番教室に於て第一回原水禁大会全学報告集会」「原子力潜水艦寄港抗議集会」が約五十名の学生の参加のもとに開かれた。

原水禁大会実行委代表委員長太田君の総括的報告、大学院・教職組代表の挨拶が行われ議事を終了し、引き続いて映画「黒い潜水艦」が上映され午後六時散会した。

「報告集会」に於ての中心に位置していた太田君の総括的報告は(1)アジアをめぐる情勢・(2)平和運動に於る分裂策動について・(3)百万人集会の成果及び十億人集会に対する我々の態度・(4)被爆者救援等の諸点についてなされた。

(1)に於ては南ベトナム、インドシナ問題が中心的に取り上げられそれらの問題をアメリカ帝国主義の東南アジアの民族解放闘争に対する弾圧という形で受けとめ、我々は民族解放闘争を支持しなければならないとされ、さらに日本の米軍基地からアメリカの飛行機が飛び立つこと、あるいは現在国民的に展開されている献血が南ベトナム、インドシナに持ち込まれている等から東南アジアの問題は日本の問題として考えなければならないと強調された。

(2)に於ては被爆三県連絡会議の運動が分裂策動以外のなにものでもないとされ、それに対する批判が展開された。

(3)に於ては百万人集会は第十回原水禁大会を下からさきがるものであったとして高く評価され、さらに二百万人集会、十億人集会に向けて立教に於ても平和の問題を二人一人の学生と話し合うことにより平和の為の闘いに結集していかなければならないと述べられた。

(4)に於ては被爆者救援の強化が訴えられた。

〔解説〕「原水協」「被災三県連絡会議」「核禁会議」の日本の平和運動、及び国際的平和運動は新たな国際情勢の激動を反映して部分的には暴力的様相を呈はらむ膨大な大衆のエネルギーを集約している。平和運動は国際的な危機の同時性を前にして反帝国主義闘争に高めうる条件をもっている。しかしながらそれは中共、日共路線のごとくにすべての闘争を反米闘争へという国際、国内情勢の客観的把握の欠陥から必然的に導き出される分裂方針でもなく、又社会党に見られるすべてを完全軍縮へという反帝国主義闘争との関連の欠除と具体的方針の欠除ではなく、危機的情勢の成熟とそれに規定され必然的に現象する各民族国家内に於る政治的反動への実践的、具体的な対処として展開されなければならないであろう。我々はまず「せがひでも平和を」という功主式センチメンタルのはかけたあっかれと決定的に訣別し米ソ核実験反対というそれ自身、革命的でもないスローガンを「原潜寄港反対」という戦術を媒介として、それと憲法改悪との関連のもとに平和運動を反帝国主義闘争に高める視点を追求しなければならない。もちろんそれは平和運動の指導の問題に一切還元できるものではなく、大衆をいかにして高めるかという形で問題が立てられなければならないのであろう。

立教より四名の代表

―東京五輪に―

十月十日から開幕する東京オリンピック大会に本学からも四名の代表選手を送ることになりこの十六日に学内壮行会が催された。各選手の横顔は次のとおり。

山内政勝 法学部四年
艇手付フォア・艇手としての代表選手。愛媛県松山北高出身。三八年度全日本レガッタ三位の実力をかわれてオリンピック候補選手となる。

荒木敏明 経済学部四年
フェンシング、エペの部代表選手。北海道札幌南高出身。三八年度全日本学生フェンシング選手権エペの部優勝。三十九年度全日本選手権エペの部優勝。三十七年ユニバーシアード日本代表。

米倉宝二 社会学部二年
ボクシング、ライトウエルター級代表。千葉県銚子市野高出身。三十八年度ライトウエルター級一位。オリンピック選考試合全勝。九十二戦八十六勝六敗。一米七十三、六十三㌔。

横山譲三 社会学部三年
サッカー代表、ゴール・キーパー。埼玉県立川口高出身。東京国際スポーツ大会代表。アジアムルディガ大会代表。オリンピック強化策ヨーロッパ遠征代表ソ連遠征代表。

写真左から荒木、横山、山内、米倉の各選手

学内で抗議集会

原潜寄港、級委員会が中心に

米核潜艦「寄港」阻止、全学抗議集会が、九月一六日一二時より時計台下で行なわれた。これは級委員会が主催したものである集会には約二五〇人の学生が結集した。級委員会、文化会本部などの反対声明が行なわれ、その後、経済学部の久留間講師が原子力潜水艦の日本寄港の背景とその意味について講演した。また級委員会文化会本部では、これを学内的な運動に盛り上げるために、教授、大学院学生とともに訴えようと呼びかけている。

秋の六大学野球

東大から勝点一

東京六大学野球秋季リーグ戦が九月五日神宮球場に於て慶・法戦を以て開幕した。七月に北海道に遠征した立教野球部は合地ファンプロを相手に練習に励んだ。その甲斐あってか、一、二年生が著しのびを見せ、かなりの好成績が上げられるものと予想されている。

9月12日立一東
13日東一立 一塁撃土井
19日立一早 2右翼後
20日早一立 3中堅谷木
10月3日立一法 4一塁前田
4日法一立 5左翼神谷
25日立一慶 6二塁池本
26日慶一立 7捕手村上
31日立一明 8三塁大塚
11月1日明一立 9投手石川

十五年振に入賞

卓球部

九月十二日、渋谷リキースポツパレスで行なわれた関東大学卓球リーグ戦に於て、本学の卓球部が、田原キャプテンの努力が大いにものをいい、一五年ぶりに三位に入賞した。今後卓球部の活躍が期待される。

十五年振に入賞

卓球部

九月十二日、渋谷リキースポツパレスで行なわれた関東大学卓球リーグ戦に於て、本学の卓球部が、田原キャプテンの努力が大いにものをいい、一五年ぶりに三位に入賞した。今後卓球部の活躍が期待される。

〈写真左から荒木、横山、山内、米倉の各選手〉

〈うたごえ〉祭典開かる

来る十月一九日月曜日、本学タッカーホールにて午後四時三〇分より八時三〇分まで四時間にわたり"うたごえ祭典"が合唱団あひるを中心として文化会本部、クラス委員会により開催される。鈴木あひるキャップによれば"誰もが参加して、歌いたいというみんなの要求を満たす場をつくり、歌う楽しみを知らせ、また日本の民謡の良さをひろめよう"という主旨である。なお外部からは中央合唱団が来演し、多くロシア民謡が歌われる模様である。

就職戦線

金融関係に伸び

八月三一日現在 約60%の内定者

毎年、激しい様相を展開している就職戦線も八月の最大のヤマ場を終り、これから第二波を迎えようとしている。八月三一日現在、決定者数は八八七名になり、昨年の今頃と比較してみると今年の就職率はやや上回りの傾向を示しており、また、今まで縁故関係者以外は受験する事のできなかった大企業の一般公募がふえ始めているのが今年の特徴であろう。もう一つの特徴は証券会社の応募者が少なかった事で、マス・コミ関係会社の試験が「オリンピックがあるから」と言う大義名分のもとに非常に早かった事である。しかし、就職部ではあくまでも紳学憲法を守って四月一日、一斉推薦」を唱えきったがその規約を守った結果としては、決してマイナスにはならなかった模様である。

毎年、問題になる女子では大張り今までの就職率は非常に悪いがこれは女子の多くが希望する教員関係の試験がまだ行われず、これから始まる、という事にもよるであろう。

八月の第一波よりやや小さくなったとはいえ、九月十月の第二のヤマ場を迎えるにあたって就職部では大体、八五～九〇%の就職が決まるだろう、との見通しをたてており、更には全員の完全就職という予想をはっきりと打ちたてている。(注・これはあくまでも決定が決まった事を就職部に届け出た数だけであり、まだ決まっていながら届け出ていない学生が相当ある、と就職部ではみており、決まった学生は一刻も早く届け出てもらいたい意向である。)(決定会社名一覧は二面に掲載)

論説

独占支配に対する血肉化された認識を

―立教祭スローガン原案に思う―

(一)

今年もまた大学の"お祭り"のシーズンがやってきた。今年の立教祭は十月三十一日から十一月三日まで行なわれるが、それにさきだち実行委員会から立教祭スローガン(原案)なるレジメが出された。

スローガン原案の序には「日本では戦争と従属、貧困の道か、それとも平和、自主独立、生活の向上の道かいずれかをめぐる矛盾が非常に高まっている」という形で情勢分析の基本的な視点が提示されている。この戦争か平和かという二者択一的な思考様式は、現在の反対制運動の危機的情況を象徴的にあらわしており、独占資本の支配に対する思想退化以外のなにものでもない思う。なぜなら、反体制運動という名文のもとに、戦争か平和かという題目が社会構成や独占支配と有機的に関連づけられないで坊主のお経みたいにとなえられているからである。私達はまず、私達の生活そのものを人間的なものでありえなくしている独占支配に対する血肉化された認識から出発しなければならない情勢は「歴史の法則通り平和と民主主義を守る側の方に有利に展開している」とか「世界の情勢は社会主義陣営に有利に展開している」というように現象的に政治情勢に反応して一喜一憂する素人政治家が大道を歩するときまでに思想そのものの危機が始まっているのだといえる。

さらにこのような情勢に対する客観的な把握は、情勢そのものの把握の意識的な歪曲の結果、すでに一発のストライキすらも打てないほどの壊滅状態にあり敗北につぐ敗北を続けている労働戦線の危機的情況そのものを彼等は見い出しえない。わたしたちはこうした反体制陣営の情況とも対決し、その誤謬を克服しつつ独占支配に対決していかなければならないということを認識しなければならないであろう。

(二)

実行委員会は文化情況をとらえて「第一は戦争ものの風潮の氾濫、第二は、無国籍文化が氾濫する反面、日本の伝統文化が荒廃の危機にあり第三はメロドラマ、ジャズの氾濫であり、これらは日本の軍国主義復活の道を推進する以外のなにものでもない」(要約)と分析している。ここには文化運動を創造的なものでありえなくしているわたしたちの社会に対する徹底的な批判も、わたしたちの追求すべき文化運動理論の一片も存在しない。あるのは、資本制文化に対する観念的嫌悪感と民族文化の擁護という路線である。わたしたちは今二年原案で分析しているような資本制による文化の風化現象を防止する文化運動をいかにして創り出していくかという点に関する追求をさなければならない。その場合それは民族文化の擁護によっては不可能であり資本制文化の否定的媒介のうえにしか民資本の文化は創り出されない。すなわち資本主義社会に於ては資本制文化より優れた民資本制文化を創り出すことは出来ないのでありたわたしたちは資本制文化の優位性を否定的媒介にすることによって対想性としてはこれを克服する可能性をもつものである。

(三)

反体制運動、文化運動の混迷、低落が叫ばれてから久しいが立教大学に於ける文化運動指導者のように安保闘争以降の政治情況、文化情況を概括的に分析し紙の上だけで革命的なことを書いて一般学生に注入してもそれはなにごとをも意味しない。いやかえって有害でさえあるのだ。指導者は懸命になって文化運動を政治運動に結合させようと考えているのだが、文化運動にはそれ自体では商級的・政治的観点などは存在しえないということを知らなければならない文化運動が商級的、政治的観点をもちうるのはそれが被支配商級である大衆の社会意識や大衆組織と対応づけられたときのみである。文化の創造を政治組織の類同性に於てとらえたりする文化至上主義が文化運動指導者にのさばっているかぎり立教においては文化創造運動のひとかけらも見い出しえないということになるであろう。

指導者は一般学生不在のところで自分達のみの原理的サイクルを無意味にクルクルまわすのではなく一般学生の居るところに自らおりてって一般学生に自分達の理論をたたきつけ検証し一緒になって苦悩するがいい。混迷に徹底しぶさまな格好で悪戦苦闘するところにしか飛躍はない。

沢井(正)教授スイスで死去

去る八月十三日、本学キリスト教学科の沢井正治教授はスイス、チューリッヒホテルに於て心臓麻痺のため急逝した。享年五六才。同教授は哲学研究のため十二月末日までの予定で渡英の途中であった。

なお、九月九日午後四時より、五弓鉛会議室に於て、故沢井正治教授追悼会、九月十日同じく午後四時よりチャペルに於て同記念式典がそれぞれ行われた。

〔沢井教授略歴〕
明治四一年四月十日、石川県鹿島郡能登部町に生る。
昭和十年三月、立教大学文学部哲学科卒。
同十四年三月、東京文理科大学哲学科卒。
同十四年四月、立教大学講師
同十二年四月、立教工業理科専門学校教授兼立教大学予科教授
同、四年四月、立教大学文学部教授。
同三年五月、立教大学一般教育部教授。

河出書房
経営者
阪口昭著
〈現代の経済〉全18巻・各290円
編集委員・名和統一 安藤良雄 長洲一二 宮崎義一 武山泰雄
第三回・発売中
現代の"怪物"を解明する!
現代はある意味で「経営者の時代」である。その一挙手一投足が注目される現代の怪物〈経営者〉とはそもそもなにか?「資本家」に機械的に対置した意味での〈経営者〉という見方も、国家独占資本主義論にみられる一面的な把握もしりぞけ、現実的な角度から「財界ヘゲモニー形成」の過程と理論を追求し、新しい「多元的ヘゲモニー論」を展開する――
■第1回・発売中 ■長洲一二著
資本主義の新時代
■第2回・発売中 ■伊東光晴著
大量消費時代

研究社の英語雑誌
本格的英語実力の完成に!
The STUDY of ENGLISH
〈英語研究〉 10月号 ¥100
▶ホーソーン没後百年記念特集◀ホーソーンの人と作品▽『緋文字』解題▽ホーソーン移入の諸相▽ホーソーンとその周囲▼新高等英語講座:英文解釈の実際・英文法落穂集・自由和文英訳・実用英語▽映画台本トインビー:『75才のヤヌス』≪回顧録≫
生きた米英語の解明に! 10月号 ¥120
時事英語研究
街で見た英語の実態・ホテル案内パンフレットの巻(長谷川潔・堀内克明共同調査)
映画シナリオ研究「イグアナの夜」★新語
東京都千代田区富士見町二ノ一 研究社 全国書店発売中

商業英語誌 尾崎茂監修 ¥100
Business English
毎月27日発売
商業英語の研究家は誰でも読んでいる月刊誌。初歩から勉強できる入門講座、実力を身につける商英セミナー、電報セミナー
商業英語シリーズ
尾崎茂 A5判170頁 定価300円(〒60円)
ビズネス・レターを書くコツ
羽田三郎著 B6判 95頁 定価120円(〒30円)
商業英作文の急所
羽田三郎著 A5判244頁 定価350円(〒80円)
貿易通信の難所
山本謙一著 新書判210頁 定価290円(〒40円)
時事経済英語読み書きの手引
尾崎茂著 B6判390頁 定価390円(〒80円)
上級英会話
Robert S. Ozaki B6判130頁 定価200円(〒40円)
Handbook of Economics
商業英語シリーズ各冊は書店には出て居りません。シリーズについてのお問合せは直接本社へ。シリーズの注文は書店へお出し下さるほうがお得です。
東京・板橋・南常盤台1の16 商業英語出版社 振替東京31957

桜井和市著
ドイツ広文典
B6判 460頁 ¥680 〒110
好評 58版 発行!
藤田五郎著 藤田ドイツ語入門 B6判 三九〇頁 ¥三六〇 〒二〇〇
会話風 やさしい独作文 岩崎英二郎 ¥四五 〒二〇
森川ドイツ語入門 森川曽利著 ¥六五 〒二五
(好評 重版出来!)
初歩からの教養ドイツ語 阿部貞隆著 ¥六〇 〒二〇
篠田・佐藤 講座 初級 現代フランス語
篠田俊敏・家島光一郎・田島宏 共著
基礎フランス語講座 上下二巻各 ¥六〇 〒二〇
フランス文法入門 家島光一郎 ¥三五 〒二〇
フランス語の基礎 大井恒行著 ¥四五 〒二〇
A5判三五〇頁 ¥八〇〇 〒二五〇
初級雑誌 ドイツ語 ¥180 〒12
秋の特別増ページ号 発売中
定評ある初級ドイツ語のガイドブック! 権威ある執筆陣!
東京・神田・猿楽町2の6 第三書房 振替東京133990

開放経済と日本
大内兵衛/大内力/高橋正雄/長洲一二/藤田若雄編
"戦後的"な世界の政治・経済構造のフレーム・ワークは、ようやく崩壊しはじめ、新しい秩序と体制をもとめる再編成の動向が著るしい。本書は、東西両陣営内部の多元化・流動化の状況や、覇権争奪の共存の展開といった大きな視野と展望のなかに、日本の政治・経済・社会の現状と明日のヴィジョンをさぐろうとしたシンポジウム。来るべき"昭和四十年代"の局面を、開放体制下の諸課題を追求する共同討議のなかでうきぼりにしている。
三一新書■最新刊 好評発売中・価二八〇円
三一書房 東京神田駿河台2

現代経済理論の エッセンス
ケインズ以後の18大理論
ぺりかん・エッセンス・シリーズ
監修 東京大学教授 木村健康
A5判・400頁・650円
日本経済新聞論説委員 井上毅著
人つくりの経済学
●人間能力開発と人間投資の理論
A5判上製函入 価一、二〇〇円
1ケインズ 2ルーカス 3ハンセン 4ヒックス 5レオンチェフ 6ミュルダール 7サミュエルソン 8ロビンソン 9ドーマー 10ハロッド 11カルドア 12ロビンソン 13ヌルクセ 14ガルブレイス 15ボルディング 16トリフィン 17ドッブ 18シュムペーター
ぺりかん社 東京都文京区弓町2の2 振替・東京48881番

40年版
上級・中級 公務員
大学用 就職試験
増進堂
大阪市西区新町南通三の七七 振替口座 大阪八四四九番
試験問題の総合研究
就職試験
昨年度の全国主要会社・銀行の入社試験問題を中心に、最近3ヵ年の出題問題を精選し項目別に系統的に分類配列。全問題にわたり懇切な模範解答をつけ、詳細な採用試験状況調査を付した定評ある準備書。
大学用……350円
公務員
最近の国家公務員、地方公務員および現業官庁(国鉄・電々公社・専売公社)の採用・任用試験問題を系統的に分類配列し、全問題に模範解答と注釈をつけて、公務員試験志望者の学習の便をはかった好評の準備書
上級・中級用……280円

現代思潮社 東京都文京区春日1-6 振替・東京72442番
国家資本主義と革命
対馬忠行著 ■650円
ラーヤ・ドゥナエフスカヤ 三浦正夫・対馬忠行訳 ■1500円
疎外と革命
トロツキズムとその超克■現代世界を分割支配するアメリカ帝国主義とソ連官僚国家資本主義の構造的特質を綿密に分析し、既成左翼によるマルクス主義の歪曲を根底的に批判・論破して、世界革命の展望に大胆な問題提起を試みる戦闘的労作付■永続革命論(クリフ)他1篇
マルクス主義の再建■トロツキー秘書として反スターリン主義運動の最前線で闘いつづけてきた著者が、マルクス主義の生成と展開を歴史的■論理的に再構成し、《人間主義的マルクス主義》の思想的根拠を確立して革命的左翼の世界的視野に新段階を劃した大著を初めて完訳する
トロツキー/栗田勇他訳
わが生涯 全3冊
ロシア革命の詩と真実を描いてあらゆる神話を粉砕する自伝文学の傑作■重版発売中・各300円
吉本隆明 擬制の終焉 600
吉本隆明 異端と正系 480
黒田寛一 現代における平和と革命 350
黒田寛一 社会観の探求 350
梅本克己 過渡期の意識 360
梅本克己 唯物論と主体性 540

ドイツ語図書専門出版 郁文堂
申込次第目録(内容見本)呈
独文解釈の研究 阿部貞隆著 ¥70
独文解釈の演習 翼武田・青山 ¥70
ドイツ文の構造 三好助三郎 ¥80
独英対照文法 青木一郎 ¥60
わかり易い中級ドイツ語 小栗茂著 ¥50
ドイツ文法の知識 阿部貞隆著 ¥40
覚え易い表解ドイツ文法 青木一郎 ¥60
一目でわかるドイツ語変化表 青木一郎 ¥40
現代独作文 仁科武光 ミュラー 400
接続法 ―その理論と応用― 荒木実著 ¥40
ドイツ必要単語四〇〇〇 郁文堂 ¥40
ドイツ単語五五〇〇 大谷信太郎 ¥40
ドイツ語基礎単語熟語 藤本敏秀 ¥30
ドイツ語慣用句 山川平一 ¥80
ドイツの諺 野本祥治 ¥40
ドイツ語の鍵 郁文堂 ¥40
佐藤晃一・ヴーテノー吹込 ドイツ語基礎会話 録音シート(4枚)価600円〒40
植田敏郎著 ¥250 〒40
ドイツ語会話35章 岡崎孝一著 ¥400 〒60
ドイツ語話し方 その基本 万足亭 I 330円 II 450円 〒60
ドイツ詩評釈 I II 唐詩選や万葉古今に比肩する新らしい古典としての愛誦詩
大学ドイツ語講座 相良守峯博士監修 全六巻 I前期篇 II後期篇 III文科篇 IV理科篇 V医科篇 VI生活篇 A5判上製 価各450円〒100
橋本ドイツ語講座 橋本文夫著 興味ある譬喩が文法と平行し知らぬ間に実力がつく 価各250円 〒50
ドイツ語ポイントのつかみ方 青木一郎著 ¥150 〒30 独自の暗記体系を中心に、ドイツ文法の骨組を説明(新刊)
―独和対訳叢書―
大畑末吉・宮野悦義訳註 アンデルセン 絵のない絵本 (新刊) ¥300 〒40
ヘッセ 青春は美わし ¥250 〒40
ヘルムホルツ 一科学者の回想 ¥150 〒30
エッカーマン ゲーテとの談話 ¥300 〒40
ベルゲングリュン スペインのバラ ¥250

米原子力潜水艦日本寄港

本質は階級抑圧の武器

「安全性論議」「平和の問題」からの脱去を

日本の社会を大きく揺り動かした日韓会談は韓国学生の必死の抵抗にあい、一時中断をよぎなくされているが、その間隙を縫って重大な政治課題を荷なうアメリカの原子力潜水艦の日本寄港の問題が再び登場してきた。日本政府はすでに八月二八日、山中アメリカ局安全保障課長を通じて「通常の原子力潜水艦の寄港に日本側としても異議がない」むねの対米回答をしており、一般に原子力潜水艦の初寄港は一ヶ月後に予想されている。アメリカの原子力潜水艦日本寄港の問題が具体的な政治課題として起ったのは昨年の一月で、その間、科学者をはじめ社会党、学生、一般市民によって反対運動が行なわれてきたが、今回、突如として行なった政府の対米回答はそれらの声を全く無視した暴挙といわなければならない。一方、寄港阻止闘争の側は政府の対米回答に完全に受身の立場に立ってしまったわけであるが、「寄港」という既成事実を作らせないために早急に強固な阻止闘争を組む必要にせまられている。

□□□□□□□□□

核軍拡競争の申し子・原子力潜水艦

いわゆる現代兵器の花形である原子力潜水艦とはどういうものであろうか。第二次大戦後、すなわち原子爆弾が開発されて「核戦争」の時代に入って以来、国際政治の上では「軍縮」という問題がクローズ・アップされ、大きく宣伝されている。「社会主義国」のチャンピオンであるソ連の指導者も帝国主義国のチャンピオンであるアメリカの指導者も、そして嫌がるアメリカの指導者も、そして嫌がる「核軍拡競争」を展開し、核兵器を持たない国の指導者は必死に核兵器の開発に、外国核兵器の自国持ち込みに狂奔している。このような事実の前には、他方において華々しく宣伝される「東西巨頭会談」とか「軍縮会議」なるものは、もはや世界人民には世界各国の指導者（＝支配者）の政治的デモンストレーションとしか映りようがなく、まして、そこから「軍縮への道」が開かれようなどということは全くの幻想でしかないことも明らかとなっている。今回問題となっている原子力潜水艦もこのような「核軍拡競争」の申し子として登場してきたのである。さて、「核戦争時代」の最優秀兵器はなんといっても、強力なロケットに核弾頭をつけた「大陸間弾道弾」ミサイルである。スイッチ一つで世界を絶滅する威力を持つ現代兵器は、それが「社会主義」国のものであろうと、資本主義国のものであろうと、それ自身まさに反人民的なものであることにかわりがない。そして、その核兵器を握るすべての国の指導者（権力者）も世界人民の敵対者である。戦争の道具としてのミサイルの出現は、反対に戦争そのものを不可能（もちろん局地戦はミサイルを後楯として行なわれるが）にしたが、それにもかかわらず権力者達はその不可能な戦争をめざってなおも「核兵器」の開発を行なっている。原子力潜水艦とはその不可能な戦争に使われる兵器として登場してきたのである。すなわち、攻撃目標にされやすい地上の核基地を海中を自由に移動することのできるまさに「隠れた移動核基地」によって補なうという目的で出現したのが原子力潜水艦である。そこには、地上基地は（もちろん地上は）全滅されてもなお海中から攻撃しようという気違いじみた思考がある。

このような目的で出現した原子力潜水艦、ことにアメリカのそれには大きく次の二種類がある。一つはいわゆる「通常型」とよばれるもので、これには核魚雷「サブロック」を積むことができる。もう一つは「ポラリス型」とよばれている潜水艦で、これは海中から一六発の中距離弾道弾ポラリス（一発の核爆発力は広島型の約五〇倍）を発射することができるまさに「海中移動核基地」である。日本に寄港地を持つことになったアメリカの原子力潜水艦は、先の「通常型」といわれているが、そこには軍事上の違法性が日本側は調べることを許されておらず、当然「ポラリス型」も来ると見なければならない。また「通常型」といったところで核弾を積んでいることには違いなく、日本人民が寄港を許せば、今後、公然と核兵器が日本に持ち込まれることになることもまた必然である。

□□□□□□□□□

阻止闘争における二つの原潜論議

このようなアメリカの原子力潜水艦が、乗員の交代や食料、医薬品の補充、修理のために寄港するという問題は、日本のみならず世界のあちこちの資本主義国で起っており、それに対する反対運動もイギリスをはじめ世界各国で起っている。世間によく知られていることは、デンマーク政府が自国の科学者の意見を取り入れ、これを断ったケースもある。一方、わが国においても科学者や政党、労組団体、学生、一般市民がそれぞれの立場から寄港反対運動を行なっているが、それらの主張をたいたい次の二点に分けることができる。すなわち一つは科学者を中心とするグループで、主に科学的見地から原子力潜水艦の原動力である原子炉の構造にともなう安全性の問題、それに付随する廃棄物投棄の問題、海難事故の危険性等を指摘して反対する立場である。（注、この点に関する最近の論文では朝日ジャーナル九月二三日号本学理学部服部学助教授の「原潜の安全性に再び疑問を呈す」がある。）第二点は、社共両党、総評学生運動の諸派では共産、構造派などが主張するいわゆるこれを「平和」という観点からアプローチして反対運動を展開しようとするものである。彼らによればアメリカの原子力潜水艦の日本寄港を許せば、日本がアメリカの核基地となり、それはアジアの平和をおびやかすか。また原子力潜水艦の日本寄港はアメリカの核戦略体制の変化（多角的核戦略構想）に伴うアジアにおける反「共」軍事体制「中国封じ込め」の強化であり、日本がその片棒を荷なうことになる、という。この主張はサブロック、ポラリス等の核兵器が日本に持ち込まれるということがその重点となっている。また、学生運動の諸派ではいわゆる構造改革派は、今回のアメリカ原子力潜水艦の日本寄港は、アメリカの多角的核戦略体制の一環という見地から、原子力潜水艦寄港阻止闘争は日本が冷戦に一役を買うという事態を防止するだけではなく、それをつき進めて、極東非核武装地帯を設置させ、世界の冷戦構造そのものを変革する闘いとしての意味をもつ、と主張する。以上が原子力潜水艦寄港反対運動に見られる大きく二つの見解であるが、第一の科学者の主張はそれなりの説得力があり阻止闘争の中で一つの重要なモメントとなっていることも事実であるが、それはあくまで問題の本質に肉迫するのでないことはいうまでもない。政府自身も今回のアメリカ原子力潜水艦日本寄港は、その安全性のみに問題があるかのごとく宣伝して、その本質を国民の目からはぐらかそうとしている。そこで、阻止闘争の理論づけすなわち問題の本質把握という点で第二の主張を検討する必要がある。ここでは原子力潜水艦の日本寄港を準なる「平和」の問題として受けとめきれるかどうかという点に見なければならないであろう。確かにアメリカの世界核戦略体制は、従来のミサイルを主体とするものから地上核基地と通常兵力それに海中移動ミサイル基地である原子力潜水艦が結びついた「多角的核戦力構想」へと移行しつつある。しかし、だからと云って原子力潜水艦の東南アジア配備が核軍拡競争の必然的結果とだけ見ることは、あまりにも一面的すぎるように思われる。そこで、アメリカとそれに結びついた東南アジア諸国の支配者がなぜ今ポラリス潜水艦を東南アジアに出没させなければならないのかを、具体的に検討して見なければならない。

□□□□□□□□□

東南アジアにおける階級闘争と原潜

確かにアメリカのポラリス潜水艦の東南アジア配備は、ソ連、中国を仮想敵国とするアメリカの反「共」軍事体制の一環であるとしても、その背後に直接アメリカの帝国主義的利害と各国支配者の利害がからんでいることを見なければならないであろう。五七年からのドル危機によるアメリカ帝国主義の相対的地位の低下は、アメリカによる世界の全一的支配を崩壊させたが、その中で各地―中南米ラオス、南ベトナム、韓国等の大衆によるアメリカ帝国主義とそれに結びついた買弁資本に対する階級闘争、民族解放闘争が激化してきた。このことはアメリカ帝国主義の東南アジアからの後退、したがって、アメリカ帝国主義そのものの危機の深化を、また東南アジアの支配者たちにとっては体制そのものの崩壊を意味している。したがってこのような各国の階級闘争が激化すればするほど、アメリカ帝国主義とそれに結びついた各国の支配者たちはそれを鎮圧するために階級抑圧の強力な武器が必要となっているのである。

現在、各国にある軍事基地の維持費が巨大にかさんでいるアメリカにとってはそれを補う意味で安い経費で、しかも移務するミサイル基地であるポラリスの重要性が増々高まっている。いわゆる戦争を不可能にした現代兵器（核兵器）は戦争の道具としての実用性より政策遂行の、あるいは階級抑圧のすなわち、政治的パック・ボーンとしての性格が強くなっている。ポラリス潜水艦の東南アジア配備の背景をみぬき、われわれはスレッシャー号の沈没による原子炉破壊の恐怖から、また一般的抽象的なアメリカの反「共」軍事体制の強化という問題から、より具体的な日本における階級闘争の抑圧、そして韓国人民の闘いに対する、南ベトナム人民の闘いに対する各国支配者の抑圧を援助する武器としてポラリス潜水艦を把えなければならない。原子力潜水艦の日本寄港問題が、例のスレッシャー号の沈没の原因解明（それも明らかとなっていないが）を待って、日韓の階級同盟である日韓会談が日韓両国人民の猛烈な反撃によって中断されている時に、また南ベトナムにおけるアメリカ帝国主義とそれに結びついている南ベトナムの買弁資本の支配が風前の灯となっている現在、再び起ってきたという事実がそれを立証している。

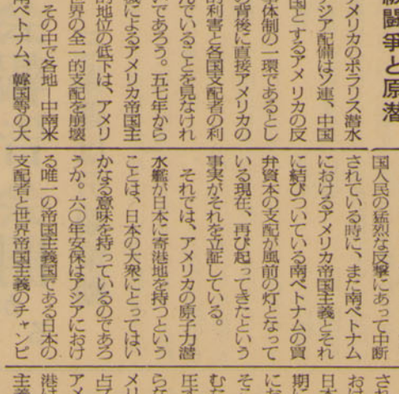
それでは、アメリカの原子力潜水艦が日本に寄港地を持つということは、日本の大衆にとってはいかなる意味を持っているのであろうか。六〇年安保はアジアにおける唯一の帝国主義国である日本の支配者と世界帝国主義のチャンピオンであるアメリカの支配者の階級同盟として締結された。それは日本の支配者にとっては国内における人民の抵抗を封殺し、保守政権の安定を企りつつ、対外的には東南アジアへの帝国主義的進出のりだすバック・ボーンとなるものであった。

事実、安保以後、日本における資本主義体制は一層強固になっている。日韓会談はそうした帝国主義国日本が東南アジアにおける資本主義国で最も弱い部分の一つである韓国に公然と進出するために、韓国の買弁資本と階級同盟を結ぼうとして起ってきたのであるが、韓国の買弁資本と階級同盟を結ぼうとして起ってきたのであるが、韓国人民の反撃によって中断されているのである。この時点におけるアメリカの原子力潜水艦の日本寄港の目的は、日韓会談を早期に締結させることによって韓国における資本主義体制を維持させ、そこに帝国主義のくびきを打ち込むために日韓両国人民の闘いを抑圧することである。見なければならない。もちろん、その主役はアメリカ帝国主義と日本の政府＝独占ブルジョワジーである。一方、アメリカの原子力潜水艦の日本寄港は日本が軍事的にも強固な帝国主義国となるための前提となる。

すなわち、現在、ドル後退になやむアメリカは益々重荷の重さを増す外国基地を削減して、ポラリス潜水艦を配備し、その役割をはたそうとしている。その結果、当然アメリカの在外国兵力の肩変りは、その国に行なわなければならない。日本の場合、それは自衛隊の増強、そして憲法を改悪して軍隊所持を明文化することであり、国内治安のための警察権力の強化となるのである。このことは日本の支配者にとっては、彼らの帝国主義的野望を貫き通すための必要条件でもある。

いずれにしても原子力潜水艦日本寄港阻止の闘争が重要なのは幻想的な、あるいは抽象的な「極東非核武装地帯設置」とか「冷戦緩和」などという「平和」の問題だからではなく、日韓、東南アジアの人民の闘いに対する抑圧の武器であり、学生の労働者階級の願望が従って、この闘争が帝国主義の理圧から自己を守り、そのくびきから自己を解放しようとするものだからである。

原子力潜水艦日本寄港はやがてもするとその安全性のみが、また核兵器の日本持ち込みのみが問題であるかのように考えられがちであるが、本質はもっと深くわれわれ自身を拘束し抑圧してくるところの帝国主義政策にこそあるという点を明確に把握する必要がある。そうでないと運動そのものは、いくら人を集めたところで、政府＝支配者の巧みな策動に足をすくわれる結果となってしまうであろう。すべての事象はその歴史的性格、すなわち反動が進歩かという点にたち帰って考察しないかぎり単なる事件としてしか把握することができなくなってしまうということを、過去の歴史がわれわれに訴えかけているのである。



（上）ポラリス

（下）原子力潜水艦ノーチラス号

セントポール・キャンパス批判

岡征四郎

創刊号と二号が私の手元にとどいて、一寸驚くやら、アホらしくなるやらを今日まで持続させている。順番を二寸整理してみたい。言うまでもなく私個人の意見であることを断っておく。

一、二号とも驚く程の俗悪週刊紙の体裁である。新聞と言うより校正も乱雑に枠の中にはめこんだ様で、読み易い等というのは論外であろう。単に読み易いを強調したためか内容は稀薄。無異想、無方向、学生に密着した問題はどこに載っているのか。学問を修める者が公憤まがいの紙で喜ばすはずがなかろう。学問を修めるということをもう少し考えてほしい。新聞出版する以上不特定多数の学生を対象としているはず、最低限度の思慮を示すものを打ち出さなければなるまい【略】。

二、SCの編集者は何を考えているか。何故あれ程大量の教授の原稿を必要とするのか。自から筆を執つたものは二、三しかなく、彼等の言う『学生生活の中からもっと密着した問題を引出す』という主張が教授の『いいたい放題』の無責任調で肩代りさせられているのではあるまい【中略】。

『学部長会見』『いいたい放題』『学生相談所の窓口より』『雷』『イギリスのある村』と教授の原稿が多いがこれは一体何を意味しているか、学生新聞は学生自身が全智を総動員して、粋を集めた学生の見方主張を打出し学生の意見を吸み上げるところに意義があり存立の条件がある。【中略】編集子の主張する学生の問題を引き出すのであったら何故もっと学生の中へ積極的に入って問題を引出して見せないのだろうか。学生に論議もっと主張し論争する場を与えなければならない。

三、論説批判　経験の世界から抽象の世界へはいかなる過程を通って形造られるというのか。大学は経験の世界を重んずるの余り辺倒の作文教室でよいと言うのか。創立初から学生を排除した新聞なる学生の問題を引出し得られようか。これで全学生の共通の発言の場などとはしゃしゃいても程がある。【中略】創刊時に集合した編集子は何らかの形で主張と意見をもち、満ちあふれるばかりの意気があったはず、それはどこに出ているのか。即ちSCが主張したい学生の問題を学生々活に密着した問題としてとり出すという発想が論説にも他の欄にも配載されていないのはどういう訳だろうか。SC発刊に際し集まった編集子の主張はいかなる考えを持っていたか少しも解せないではないか。二号には新聞の本旨なる論説すらもない。一体何を目的としたのか。創刊号の編集者は何を考えていたのか。抽象の世界は経験の世界を経た、経験の世界の本質を見極めたものこそが抽象の世界のものなのではあるまいか。日常々活の本質を把握し学問の世界で学術用語を駆使して一般用語を司様に用いられてもよいのではないか。学術用語こそ事物の本質を適確に把握しその本性を一語で表現し回りくどい表現を必要とせず簡潔な表現方法で誤解を招かなくてもよいのではあるまいか。何故一般用語と学術用語を区別するのか。新しい学術用語をむやみに使うのは言葉に対して無責任な態度といえる。学者が事物の現象の奥にある根底に潜む本質を把握するのに経年月を要するのその一語の場合もある【中略】。彼等は何という一般用語を用いるというのであろうか。新しい学術用語というが一体何を言うのかを知らせてほしい。物事の脱皮的用語ではなく物の本性、本質を正確に把握するのに適格正確だからである。彼等こそ経験の世界と抽象の世界を距てる溝を一般用語と学術用語と区別することによって一層深めているのではないか。そして自己の目的を主張すること目標を見失っていないか。

四、清水武に反論　軽い気持で読めるというが「組織を通して言あげてる人達の思想だけがその社会に於ける思想の全部ではない。そのような思想は却って組織の上にあぐらをかいている怠惰な思想」という考え方をいかに考えているのか。又発刊にあたっての編集部の戯れ歌を考えるヒマのある学生は何人いると思っているのか。SCが学生新聞に対して抱いていた一定の形成内容を打破するそうだが「ズボンの破れから失念まで」のまるでクスグリまがいの週刊紙でではあるまい。更に具体的な方向性とは何か、学生層を全体的に統一的にとらえようとしている点とは何か「中略」。一般学生とは何か。他の学生とは一体何者なのか。君はどちらだと思っているのか。数少ない編集子の書いた「論説」「東南西北」「発刊によせて」「編集後記」を再読してほしい。

おわりに　従来の新聞や機関紙とは全然異なった視角から……皆さんと一緒に考えられる問題を提供する以上、東南西北や編集後記等のクダラス論議しき話しを配載するより、SCの本旨なる新しい視角から問題を提供するという姿勢を正しそれを現実化しなければならないであろう。学生新聞としての、学問を修める厳しき真剣な態度が紙面に満ちることが望ましく、単なる中傷に落込むことなく正々堂々たる確固たる意欲と正確な認識をもって問題追求心をふるい立たせてほしい。発刊間もないSCにはそれだけの意欲と意見を持った編集子が集まったのではないか。（経済学部三年）

【投稿】

新しい視角からの問題提起を

無思想、稀薄な内容

いよいよ東京オリンピックまで二十日あまりとなり、オリンピアの森から国産YS-11機で運ばれてきた聖火は九日に本土入りして今四つのコースを東京目指してリレーされている。聖火の通過によって国民の間にはオリンピックのムードがいやが上にも盛り上ってきており、一方政府もムード作りに力を入れており、今や日本の社会は表面上はオリンピック一色にぬりつぶされている。

東京オリンピックという戦前の昭和十五年に第十二回大会として行われる予定であったが折から大戦がヨーロッパで勃発してアジアでも日米の対立が増していってとてもオリンピックどころではなく、聖戦遂行の美名の下に返上されたことがあるが幸いなことには一〇〇ことけんかしたインドネシアも東西ドイツ連合チームも仲よく東京へやってくる。では受け入れ側日本の実情はどうか。まず聖火はわれわれ日本に何をもたらしたか。

本番をあと二十日後にひかえて競技場や宿舎などの施設はどうやらまにあったようだ。そこには十年前には考えられなかったような超近代的な巨大な建築物が偉容を誇示してつっ立っている。去年から今年にかけての建設工事は文字通り昼夜を問わぬ突貫工事で行われた。そして今出来上ったものをじっくりと見つめるとき、オリンピックの〝晴れの舞台〟にはまことにふさわしいとは誰でも思うが、われわれ市民の日常の生活とはかけ離れた存在のような気がしてならない。ローマ大会の場合はあの古代の遺跡と調和した近代的な施設が各国の絶賛を博したがはたして日本のこれらのモダンな建築物群は何に調和しうるか？

日本の何千年にわたる伝統、いわゆる神とかわび、さびといわれる東洋的な伝統は日本を訪れる観光客、または政府要人からも高く評価されてきている。そしてそんな日本を知っている外国人は、オリンピックでもそれを期待してやってくるにちがいない。たしかに日本武道館などは一見日本の寺院の体裁をしていて日本的といえないこともないかがこれもグロテスクな不調和な印象を与えるのみである。一つ一つ見た場合それをとってみても世界に恥じないシロモノであるが、日本的独創性が発揮されていない。そして市民にとっても親和感と利用価値の薄い超近代的建築物は市民生活から超越した存在のように思える。

オリンピック施設と並んで歩調を合せた道徳向上運動も今までの日本人の道徳の高さからいって砂上の楼閣のようなものでこれもオリンピック後にどうなるのか、この盛り上がりがいつまで続くか疑問である。こんなところに、オリンピック関係者の意気込みとはうらはらに真からムードが盛り上らない理由があるのではないか。

オリンピックに合せて十月一日開業する新幹線の超特急よろしく我々の前を自も止らない急いで通過していくでしょう。オリンピックもそんな感れをいだかずにはいられない。

焦点

〝オリンピック旋風〟

グロテスクな建築の群れ

主な決定会社一覧

就職情況

■鉱山石油関係　シェル石油（法一）大協石油（経一）古河鉱業（経一）日本冷蔵（経一）野田醤油（経各一）サッポロビール（法一）他■工業セメント関係　保谷硝子（経物各一）日本アスベスト（経二）日本セメント（経一）小野田セメント（化一）他■ゴム皮革関係　横浜ゴム（経経各一）オーツタイヤ（経一）日本理研ゴム（経一）他■紡績繊維関係　帝人（法一）櫻山（経一）市田（経三）他■鉄道陸運関係　全日本空輸（経三、法一）日本航空（経一、法一）東武鉄道（法一）日本国有鉄道（関東支社）（経一）他■倉庫不動産関係　住友不動産（法一）東京建物（経一）京浜倉庫（経一、法三）三菱倉庫（法一）三井不動産（法一）他■化学工業関係　ライオン油脂（法一）花王石鹸（経一）大日本塗料（経一）大日本インキ化学工業（経法各一）日本油脂（経一）他■医薬品関係　山之内製薬（経経各一）大正製薬（化一）中外製薬（経三）日本メルク万有（法一）三共（経法各一）他■食品醸造関係　明治乳業（経三）森永乳業（経三）雪印乳業（経三）国分商店（経社各一）森永製菓（社一）味の素（経一）日本製粉（社一）吉野製油（経一）他■機械造船関係　石川島播磨重工業（経一）日本鋼管（法一）リッカーミシン（経一）日本ナショナル金銭登録機（経一、法二）英四女（女）他■電機電線関係　松下電器産業（法一）日本ビクター（経二）物数（数各一）日立製作所（社二、法英化各一）三菱電機（経一）他■計量光学関係　日本アイビーエム（物一、経数各一）日本電子（物一）服部時計店（経三、法一）ヤシカ（物一）リコー（経三、物一）他■車輌関係　本田技研工業（経二、数一）東京トヨペット（経五、法四、社一）プリンス自動車販売（経三、法経各一）東京日産自動車販売（経三、法一）他■鉄道陸運関係　全日本空輸（経三、法一）日本航空（経一、法一）東武鉄道（法一）日本国有鉄道（関東支社）（経一）他■倉庫不動産関係　住友不動産（法一）東京建物（経一）京浜倉庫（経一、法三）三菱倉庫（法一）三井不動産（法一）他■化学工業関係　ライオン油脂（法一）花王石鹸（経一）大日本塗料（経一）大日本インキ化学工業（経法各一）日本油脂（経一）他■医薬品関係　山之内製薬（経経各一）大正製薬（化一）中外製薬（経三）日本メルク万有（法一）三共（経法各一）他■食品醸造関係　明治乳業（経三）森永乳業（経三）雪印乳業（経三）国分商店（経社各一）日本製粉（社一）他■製紙パルプ関係　日本加工製紙（経一）中井（経一）他■出版関係　文芸春秋新社（経一）東洋経済新報社（経一）日本リーダースダイジェスト社（法一）集英社（英一）他■建設関係　清水建設（経二、法一）戸田建設（経二）東急建設（経二、法経各一）日本道路（社一）三井建設（経法各一）住友建設（経一）大成建設（法一）他■銀行関係　日本勧業銀行（経一）大和銀行（経一）三菱銀行（経二）富士銀行（経経法各一）日本銀行（法一）第一銀行（経一）住友銀行（法一）日本輸出入銀行（法一）他■貿易商関係　丸紅飯田（経法各一）日商（法一）三井物産（経一）豊田通商（経四、法一）内田洋行（経経各一）レナウン商事（経三）安宅産業（経二）森永商事（経一）住友商事（英史各一共に女）東京通商（経一）三菱商事（英三女）他■興業関係　東映（経法各一）テクニランド（法一）他■観光ホテル関係　第一ホテル（経法各一）新大阪ホテル（経法各一）日本交通公社（経法各一、社一）近畿日本ツーリスト（心一）他■放送関係　NHK（経二、法一）フジテレビジョン（社一）東京放送（経法各一）文化放送（史一女）日本教育テレビジョン（経一）他■電信広告関係　電通（経三、法四、社一）博報堂（経二、法日文各一）読売広告（経社各一）他■印刷関係　共同印刷（社一）大日本印刷（経一、法二）他■新聞関係　読売新聞社（数一）日本経済新聞社（経一）東京新聞社（法一）中部日本新聞社（社一）他■その他　白洋舎（経一）日本ビジネス・コンサルタント（物一）伊藤忠電子計算サービス（数物各一）（八月三一日現在）

告会

新入会員を募集しています

当新聞学会は左記の要領で新入会員を募集いたします。大学新聞の編集に興味のある方は、ふるってご応募下さい。

「立教大学新聞」は、立教大学に起る日々の問題を追求しつつ、単に学内問題にとどまることなく、現実社会の生々しい動向に目を向け、それにアプローチしていく姿勢をとっております。またわれわれ自身の自由な立場を堅持するために、資金は一切他に依存せず、完全なる独立採算制をとっております。詳しくは本学会まで。

記

一、資　格　一・二年生経験の有無は問いません。
一、募集人員　若干名

新聞学会室は体育会本部横です。

TEL　内線　六八八

立教大学新聞学会

岩波書店　東京神田一ッ橋／振替東京26240

学問的に信頼できる　使い易い辞典

岩波英和辞典

島村盛助・土居光知
田中菊雄　共著

小B6・一五二頁・上製函入
クロース装／六三〇円
総革装／八〇〇円

▼単なる訳語羅列主義を避けて、語の生きた意義の解明を志した。▼適切な用例を豊富に収めた点で、大辞典の内容に匹敵する。▼とくに基本語二〇〇〇については、重点的に詳細な説明を加え、初学者の便をはかった。▼新時代の要求に即応するために、新語・新語義を大幅にとりいれた。▼固有名詞・常用外国語をひろく採録して、実用価値を高めた。▼訳語の平易化に努め、専門用語の正確を期した。▼ジョーンズ最新版により、標準的な発音を表示した。収載語数六万。

熟語用例を豊富に収めた　英語辞典界の至宝

熟語本位英和中辞典

斎藤秀三郎著
豊田実増補

B6・一八〇二頁・上製函入
〈新増補版〉一二〇〇円

「斎藤英和」という略称ではほぼ半世紀近くも尊重・愛用されてきた本辞典は、天才的英語学者であった著者生涯の「辞典」の総決算ともいうべき書であり、独創的な編集、豊富な熟語・用例・基本語の詳細な説明、円熟した的確な訳語など幾多の特色によって、わが英語辞典界の至宝となっている。戦後さらに新用語・新用例を増補し、今日の必要に応えうるものとした。

時代の要求に応ずる　使い易い辞典

岩波独和辞典

小牧健夫・奥津彦重
佐藤通次　共著

B48判・一六八〇頁・上製函入
定価八〇〇円

現代の新語、学術・専門語、方言、固有名詞を豊富にとり入れるとともに、的確な代表的訳語によって語義を正しく伝えるなど訳解上の新機軸を画し、わがドイツ語界に新風を送った辞典。小辞典ながら大辞典の実質をそなえ、これほど簡にして要をえた辞典はない。学習者のみならず、ドイツ文化に接しようとする社会人にとって、必携の辞典としてすでに定評がある。収載語数十万。

学習に最適の六法

岩波基本六法
39年版

末川博―総編集

B6・一二〇六頁・上製函入
定価五〇〇円

日常必要な法令をもれなく収めるとともに、主要な旧法令と外国立法例、公安条例に至るまで収録し、比類のない画期的六法としてすでに定評がある。三十九年版では、民法・商法・地方自治法等、改正はすべて織りこみ、さらに九件を新収し、また比較憲法、商法旧規定、部分的核実験停止条約等、一層の充実を期している。（比較参照各国新旧法令付・総収録法令二三六件）

必要な法令を正確な内容で完載

岩波六法全書
39年版

末川博　編著

B6・三一八頁・上製函入
定価一九〇〇円

事項索引・条照条文・法令総覧・手数料等一覧付・（総収録法令五八九件）本書は、昭和五年創刊以来、法律に関係あるすべての人々に広く愛されてきた。本年版は、十四件の新収法令、十一の改正法令を収め、一層内容が整備された。

追録ができました

六法全書の「追録」が出来ました。六法全書の巻末の引替カードによってお申込みください。この追録には、六月二十六日に閉会した今国会主要成立法を網羅しました。〈一部改正〉民訴・刑法・暴力行為処罰法・公選法・租税特措法など。〈新法〉新河川法・同施行法・国事行為臨時代行法・遺言方式準拠法・母子福祉法・電気事業法・林業基本法など。

■『岩波書店・辞典目録』の一九六四年版を用意してあります。各種語学辞典をはじめ岩波小辞典まで全35冊の解説付総目録です。ご希望の方は、お近くの書店か、直接小社営業部へお申し込みください。

原水禁運動終焉近し

内部にひそむ崩壊の危機

大衆不在の動員合戦

事実上分裂した原水禁運動はお互に中傷しながら八月五、六、七の三日間それぞれ広島、京都で大会が開かれた。「動員合戦」と云はれたこの大会もその内容は、原水協の大会においては日共民族路線そのままにねばり強く話し合おうと云いながら討論の場を許さないさぎ行為、三県連に於ける政党系列化という基調の逆効果、共に種々の矛盾を含みながら展開された。この運動が真の平和勢力となり得なかったその原因はどこにあるのだろうか。

原水禁運動は一九年前の8月6・9日の広島・長崎への原爆投下により一瞬のうち数十万もの生命をうばった惨るべき怪物、その恐怖をこの地上から二度とくり返してはいけないという切実な国民の願いと、一九五四年のアメリカのビキニ水爆実験の死の灰による久保山愛吉氏の死に対する怒りの中で全国民的な大運動となった。それに呼応して科学者たちが、死の灰の惨ろしさをアピールしていった。この様に発生した原水爆禁止運動は一大愛国運動として全世界的に広がっていった。そしてラッセル・アインシュタインアピール・ベルリンアピールの愛国運動の経験は原水爆禁止運動の発展に大きく役立った。原水禁の署名も二千万に達したこの時以来ノーモアヒロシマ・ナガサキを合言葉にこの恐るべき原爆の唯一の証人である日本の民衆がこの運動を世界的な運動へと全世界の人々に訴えてきた。又この運動が単なる被爆意識によるのではなく、水爆の出現によって戦争の性格の位置ずけというものが、全く変わってしまった故にこの運動が原水爆を地上から抹消することを中心としている。つまりその時々に於ける戦争政策に反対するだけでなく核兵器一切をなくすことを目的とするものである。そこに第二次世界大戦以前の平和運動がその時々に起ってはすぐ消えてゆき全人民的運動とならなかったところに大戦前と大戦後の平和運動との相違があったしかしこの運動もこの時点に於いては、ほとんど政治色をもたず政党も関与しないところの純粋。平和運動といったまきしく人類の素朴な願いから生まれた。しかしこの運動にある方向ずけを与えたのが国際共産主義運動に於ける平和共存路線であり、実験禁止協定であり軍縮の方向であった。この様に国際的権威によって方向ずけをされた運動もはやくも三五年の安保闘争の中で分裂の兆候をみせはじめたのである。

第八回大会に於ては「いかなる国の核実験にも反対する」との方針を原水協の基本原則にしろという社会党、総評系に対し共産党系は「人々の目を現実の核戦争準備からそらして核兵器禁止に反対している平和の敵（アメ帝）の真の姿を見誤らせ、原水禁運動としての終局目標である核兵器禁止というこの課題を雲のかなたにおしやってしまう」と反論を加えた。

この様にして両者の対立はそのまま第九回大会にもち込まれ、社会党総評の脱退で一応同じ大会での論争のケリはついた。脱退した社会党、総評系は今年、生まれたいわゆる広島、長崎、静岡の被災三県の代表による三・一広島アピールを基調とした「原水爆被災三県連絡会議」を支持するという立場から急速にこれに接近してきた。今度の第十回大会は分裂は完全に固定化し、広島と京都で別個の集会がもたれるに到った。

安保以前に分裂

運動理念の弱さから

しかし原水爆を禁止しようという目標で一致しながらなぜ運動論に於いてこの様に分裂するのだろうか。少なくともこの様な状態が続く限り真の原水禁運動は望めないだろうし、当然現在のこの運動も崩壊の一歩をたどるであろう。三県連の基調の骨幹には「原水禁運動の実現は現代の人類が果さねばならない歴史的課題であり正にこの点にこの運動が人類的なヒューマニズムに根ざした運動として展開されなければならない。それ故に特定の国家的利害や偏狭な党派によって左右されるべきものではなく、あくまで不偏不党の精神によって貫くべきである……」とある。しかし、三県連の大会がこの様な基調に根ざしていながらなぜマスコミなどで云はれる様に一事実は我々も見たのだが一社会党総評系の大会と云はれるのだろうか、そもそもソ連直輸入の「あらゆる…」「部分核停…」を大会の基調にすると自身、感覚の介入の結果であると見なければならない。それが故にマスコミには今度の大会が中ソ論争のもち込と云はれるように正に三県連の大会がこの基調と反対に特定の国家の介入を許すという結果となったのである。一方日本原水協の第十回大会にしても原水協本来の立場である原水爆禁止運動を単に結合するという立場に立って運動するとはいうものの正にそれを実践化するという作用を何ら行なわないで、自らの意見と対立するものはすべて排除し、すべての戦争の根源をアメ帝に一次化して運動をおし進めてゆくという運動論の誤りをおかしつつ、三県連に参加もしくは支持する者を修正主義者、分裂主義者といって切りすてているのだと考えてみればたんなるナンセンスなる話は実際あってよいのだろうか、少なくとも原水禁という目標に於いて一致していながらなぜ分裂主義者といって切りすてているのだと考えてみればたんなるナンセンスなる話は実際あってよいのだろうか、少なくとも原水禁という目標に於いて一致していながらなぜ

中ソ論争の特ち込み

主体性欠如の査証

この様な事業が出てくるのだろうか、7月から8月にかけてのアカハタをみて毎日かこの事業の乱発であるこのことは確に原水協側に限ったことではなく三県連の方の基調でも同様な動きである。正にここに国民不在と云はれるゆえんがあるのではないか。

組織による支配

日本独自の運動を

ここに於いて考えなければならないのは今までの運動はスローガン主義と云うことができる。スローガンなり決議宣言を掲げるのであるがそれを生み出すまでの運動を行っていなくまた掲げたら掲げっぱなしでそれをどの様に我々が行動化していくということは余りというより全くなかった。

現実問題として戦後原水協の場合どこの地域の原水協でも八・六になるときかんに参加する為の行動を起して色々なことを論じているのだが、今の全面的な核兵器の禁止であるあるいは核戦争阻止をしようとするものであり、日本の核武装を阻止しようとするものであり、被爆者救援であれこういう問題を提起された時一体我々がどの様にしてこれを実践化するかということをやっていない。少なくとも現在の運動がほとんど全部中央集中主義になっていて一人一人の問題として論じられていないところに問題があるのではないか。

個人がこの運動に対して責任を持つというような角度、から労組合なら労働組合が原水禁運動に参加したのではなくて、まず組織が決定をくだして、個人がそれにしばられるという転倒したい方が機縁に原水禁運動にも込まれている。従ってもう一度原水禁運動の本来のあり方を考えなければならない、とすればこの段階に於いて、個人の良識に従ってこの運動に参加するという方法をとれば得なかったろうし、国民不在などという言葉も聞かなかったろう。今後マスコミはこの様な不条理につけ込んで誘導するだろうしそれが国民の目どう反映するかが問題となってくる。不条理をつくらないことがまず要求される問題である。

この様な色々な問題を総合してみると一口に云って現在の原水禁運動の欠陥というものは真に民衆を基盤とした運動となっていないということである。確かに民衆が一つにまとまれば議論はないのだが現在のような状勢では目標は同じでも運動論に於いて一致するのはむずかしい。又それを上からおしつけて統一させようとすることは自体ナンセンスなことである。

個人が自己の責任と良心にもとづいて息想、信条の相違をのり越えて一大カンパニヤを結集し目的達成のためにお互の対立し合う意見の中から創造的に統一点を見出し行動の統一をはかるというデモクラシーの本質に準拠してこそ真の原水禁運動が展開されるのではないか、こうしてみると今度の大会の動員合戦による入員集めなど、運動の前進どころか、むしろ運動の内部的危機の象徴であったと見なければならない。

もう一つの本質的な問題は、確かにこの運動が「人類的ヒューマニズム」に根ざした運動であり、それゆえに平和運動の中でも主流をしめるにいたったのであるが、現在のような緊迫した世界情勢の中で、いわゆる「人類的ヒューマニズム」をその理念とする運動がはたしてどれほどの有効性を持ちうるかという、また、核兵器といえどもそれは戦争の道具には変りないといういわばラジカルな戦争の暗殺性ということに目を向け、それでは、その核兵器を出現させた戦争の根源をとりはらう闘いと「原水禁運動」とはいかなる関連をもって来るかという問題の追明が今なお不明確であるということである。すなわちこの問題は現代変革の追求と、その中で、「現代における平和運動の役割」とは何かという点に帰結するのではないのだろうか。日本における原水禁運動を含めた平和運動は、過去一貫して国際的権威に盲従して展開されており、まさしくそこには日本の民衆のエネルギーをヤミに消してきた跡がある。それは今も変っていない。中共かソ連かという国際的色わけが現在の日本の平和運動を分裂させていることを見れば明らかであろう。そこにはまさに日本の民衆は不在である。日本における平和運動が易性を取り戻すためには、日本の情況に見合った運動を展開せねばならず、それには日本産の組織運動論が必要なのである。そうした努力がなされないかぎり、日本の「原水禁運動」も終焉の日が近と見なければならない。

三県連大会経過報告

新聞学会は過去一貫して日本原水協主催による「原水爆禁止世界大会」に参加して来たのであるが、今年度の大会には、一応級委員会へ参加を申し込んだものの代表団からはずされてしまったという直接的な原因で参加することができなかった。また三県連の大会には、積極的参加の意図はなかったにしても、そこから何か新しい芽が出てくるのではないかという子かな期待もなかったとはいきれない。しかしそれに参加して見てこのような甘い期待感が入る込む余地のないことを痛感したのである。以上の大会の報告しかできない。

▼八月五日開会総会

開会総会は広島県立体育館で予定より時間が遅れて開会された。会場は七十八中央団体、沖縄を含む全都道府県代表二万七百七十人更に来賓として十一国際団体四十四ヶ国の代表百八名でうめつくされており、壇上には「ノーモアヒロシマ、ナガサキは全人類の願い」と書かれたステッカーがかかげられその横に大会のスローガンがひときは大きくうかび上がっている。

一、部分核停を足がかりに全面核停条約の締結を全世界に訴えよう
一、被爆者を全国民の手で守り被爆者援護法の制定をかちとろう。
一、いかなる国の核実験、核兵器にも反対し軍側全廃をかちとろう
一、平和憲法改悪に反対し、原潜寄港、F105D戦闘爆撃機配備をはじめ一切の核兵器の持ち込みや日本の核武装を阻止しよう。

一、全国民の平和の意志を結集し世界の平和の友と手をつなぎ、広島、長崎大会を成功させよう。

まず桑原英昭氏（広島原水協理事）が「全人類の期待と注目のなかでひらかれた原水禁広島長崎大会の意義は重大であり、その役割は大きい。この三日間の大会を成功させ我々の決意を新たにし平和運動に大きく貢献することを願う」と開会の挨拶をし、続いて議長団選出をもってはじめられた。シュバイツアー・ラッセルなどのメッセージその他の祝電が読み上げられ、来賓の浜中広島市長、高橋正雄九大教授、労働者代表と総評の岩井事務局長、政党から河上社会党委員長がたち、この大会を支持し部分核停、全面核停の一歩であるなど、この大会に寄せる期待と希望が表明された。続いて大会の基調報告を森滝市郎氏が主催者を代表して行なったが、この中では「国民運動としての原水禁運動の基本を堅持」その当然の前提たる『どこの国のどんな核実験にも反対』する立場に立って部分核停条約を止当に評価しこれを第一歩に完全軍縮、平和共存の達成に努力する」ということが述べられた。

更に地下実験の即時停止と全面核停条約の締結など四項目にわたる日本代表団による提案も同時になされた。引き続き国際会議運営委員長の三日間にわたった国際会議の結論の報告があり、カナダ平和評議会のエンディコット議長が、「ノーモアヒロシマのスローガンは全世界の人々の合言葉であると力強く訴え、広島の阿部静子さんから「被爆者の訴えと沖縄原水協の亀田事務局長から「特別報告」があった後に焼津、広島、長崎を結ぶ平和行進団が紹介され代表として申賀一之氏（焼津原水協理事）が挨拶して午後10時半万場の拍手のうちに大会の幕をとじた。

▼八月六日学生集会

約三五〇名の参加を集めて開かれた集会はまずこの大会が催されるまでの経過の説明があり、議長団の選出に引き続き特別報告が教育大より発表された。ここでは特に軍備ゼミについての問題が述べられた。次に立教大から宗教者平和ゼミナールの報告があり、続いて立命大より「平和の為の大学講座」の報告があった。これは平和教育大

写真は労働会館での学生集会

▼八月七日分科会・閉会総会

この日は昨日の学生集会に引き続き現在当面している内外の諸問題を四つの問題に分け、それぞれその分科会で討論を行なった。第一分科会・部分核停、レポート校大阪大・第二分科会東南アジア情勢、レポート校法政大、第三分科会憲法第九条と非核武装中立、レポート校立命大・第四分科会原水禁運動の歴史的総括、レポート校

午後から分科会の総括としての全体会議が行なわれそれぞれの分科会のレポートとその討論の内容が報告された、そして

一、実践活動の先頭に立ち原水禁運動をかちとろう
一、核拡散に反対し全面核停条約をかちとろう
一、米国へ地下核実験続行に反対しフランスの核実験を阻止しよう
一、米の極東緊張政策に反対しアジアの非核武装地帯の設置をはかろう
一、憲法九条を擁護し日本の非核武装宣言をかちとろう
一、十一・二国際共同と十二・八つ全国学生不戦集会を成功させよう
一、被爆者救護法を全国民的運動でかちとろう

この八つのスローガンを確認したその後会場の労働会館から閉会々場の広島市民球場までデモ行進を行った

閉会総会は約三万人を集め夜七時よりはじめられた。まず全員で「しあわせの歌」を合唱、大会の雰囲気を盛り上げ、続いて開会の挨拶を吉川清氏（広島原水協）が力強く訴え世界民婦連代表とガーナ代表が挨拶、伊藤茂起草副委員長より前日の諸層別会議の討論の報告を発表し森滝市郎起草委員長提示の「広島アピール」を承認、国内外の代表より被爆者救援の為に国内より三百八十万ソ連より二千万の金額がカンパされた。最後に伊藤満大会書記長による閉会宣言があり「原爆許すまじ」を合唱する中で三県連の大会はその幕をとじた。

社内報は新聞形式

■成長経済をリードする会社の経営方針を！
■つぎつぎと生み出される新製品の知識普及に！
■社員の勤労意欲を盛り上げ相互の親睦に！

今日のような早い社会の動き、また労務管理の重要性からもせひ社内報は発行したい。しかし、編集者がいない、毎月発行するには費用がかかり過ぎる。

このようなお考えでしたらせひ当社へご相談下さい。

当社では、社内線、PR誌、学校新聞等を専門に扱っております。

新聞形式の特長

■雑誌型に比較して費用が格安！
■編集が簡単！
■仕上り期日が早い！
■読みやすい！

滝沢新聞印刷KK
新宿区山吹町三十三番地
TEL260八二〇一（代）

社会福祉研究会

立教祭は「夜間中学」をテーマに

教多くのサークルがどろせましとひしめいている「山小屋」の二階に社会福祉研究会の部屋があった。部員は四十名いるが実際に活動しているのは三十名位。部の基本理念は社会福祉を研究することであるが部内に於ては「社会福祉」の概念そのものが明確な形で把握されていない。立教祭には毎年参加しており昨年は「貧困の問題」をとりあげ、今年は「夜間中学の問題」を追求する。夏の合宿には夜間中学のある三重県の上野市・名張市にかけ二十名・三十名・四十名・五十名の男女とアプローチした民生委員及び教員に対し

（1）義務教育の必要性、（2）貧困の意識について、（3）夜間中学の認識について、という点について意識調査を行った。結果は集計中であるが、立教祭にはその集計を資料としてを夜間中学の問題をいかに解決するのかという実践的な問題にアプローチした

社会福祉を研究するために集った集団であるから実践的な活動はあまり行っていないが部方向に進まなければならないとする部分と、夜間中学は当然貧困の問題と密接に結びついているがそこから直線的に社会体制の変革という結論を引き出してくるのではなく社会資源の充実・国民意識の啓蒙により除々に夜間中学を消去していかなければならないとする部分に別れている。思うに前者は社会体制の変革という結論を目明のものとしてひきずり出す過程を論理的に明確にし、それを土台として、いかなる形で社会体制を変革するのかというより実践的な問題に上向していかなければならないであろう。後者に於ては社会資源の充実、国民意識の啓蒙ということが現代社会に於て可能なのかということが検討されなければならないであろう。

社会福祉を研究するために集った集団であるから実践的な決されず社会全体の変革という方向に進まなければならないとする部分と、夜間中学は当然貧困の問題と密接に結びついているがそこから直線的に社会体制の変革という結論を引き出してくるのではなく社会資源の充実・国民意識の啓蒙により除々に夜間中学を消去していかなければならないとする部分に別れている。思うに前者は社会体制の変革という結論を目明のものとしてひきずり出す過程を論理的に明確にし、それを土台として、いかなる形で社会体制を変革するのかというより実践的な問題に上向していかなければならないであろう。後者に於ては社会資源の充実、国民意識の啓蒙ということが現代社会に於て可能なのかということが検討されなければならないであろう。

社会福祉を研究するために集った集団であるから実践的な活動はあまり行っていないが部方向に進まなければならないとする部分と、夜間中学は当然貧困の問題と密接に結びついているがそこから直線的に社会体制の変革という結論を引き出してくるのではなく社会資源の充実・国民意識の啓蒙により除々に夜間中学を消去していかなければならないとする部分に別れている。思うに前者は社会体制の変革という結論を目明のものとしてひきずり出す過程を論理的に明確にし、それを土台として、いかなる形で社会体制を変革するのかというより実践的な問題に上向していかなければならないであろう。後者に於ては社会資源の充実、国民意識の啓蒙ということが現代社会に於て可能なのかということが検討されなければならないであろう。

現代社会に於て意識的にされている夜間中学の問題を社会資源の充実、国民意識の啓蒙に、するというメスをくわえようとしている姿勢はそれなりの評価が与えられなければならないであろう。立教祭に於る成果に期待したい。

投稿

不合理な実質授業料値上げ

―休学生を全額無料に―

学生は物質的保障が確立されていないから安心して勉学に動しむことは困難である。本年度は授業料値上げをしないと確約は出来ているそうだが来年度はどうなるか危ぶまれている。ところが学校は絶えず実質的授業料を値上げしていたのである。年間二万八〇〇〇円から六万円に大幅の値上げをして現在に至っているが、筒以上値上げする理由というのは何だろうか。

特に病気休学、家庭の事情の為の休学、留学休学等々休学者は毎年多少にかかわらず出ている。

この休学者の授業料は一体どうなっているのだろうか。入学時に三、四通の宣誓書、契約書を提出し在学八年間迄の授業料は入学当初の授業料納入の契約をしていたはずである。当初の契約にもかかわらず休学中の期間に授業料値上げが行われた場合、休学者は復学した時に一年後から入学した学生と同額の授業料を支払わなければならないとは一体どういうことなのだろうか。然も休学中は単に首を斬き止めて尊くだけの為に年間約入額を支払わなければ退学になるとは、全く人間教育を云々する教育者の殿堂としてはいかようにも理解しがたい事だ。更に学校は病気休学等で経済的困難に落入っていることを知りながら見て見ぬふりをする程詐欺的態度である。単に教務課、学生部と経理部に籍をとどめて尊くのにこんなに多額の授業料（実は在籍料）を必要とするのだろうか。其の授業料は半額で十二分で足りるとでも言うのだろうか。実に悪いことに学校は休学者の事情を全く知らない。単に休学願いを提出すればよい。休学願いとある以上休学願いを受諾する際に何らかの形の審査会にもとうもおかしくないだろうか。病気休学中に学校から来たものは休学授業料の半額納入請求書とその受取りぐらいなもので、休学したら授業料はいただいて当然なとの知らぬ顔。事務の官僚主義的傾向は一弊すらしない無血事務だのだろうか。

私達「保健友の会」は二〇余名の休学者をかかえて、常授業料の実質的値上げに憤っている。毎年値上がりして三年ほど休学した場合入学当初の授業料の何倍になると云うのだろうか。これでは病気休学中の経済的負担に堪えかねて勉学を断念してしまう学生が出るかもしれない。実質的授業料値上げは教育の機会均等を阻害するばかりか、意識的に金持の子弟を教育する機関ともなりかねない。

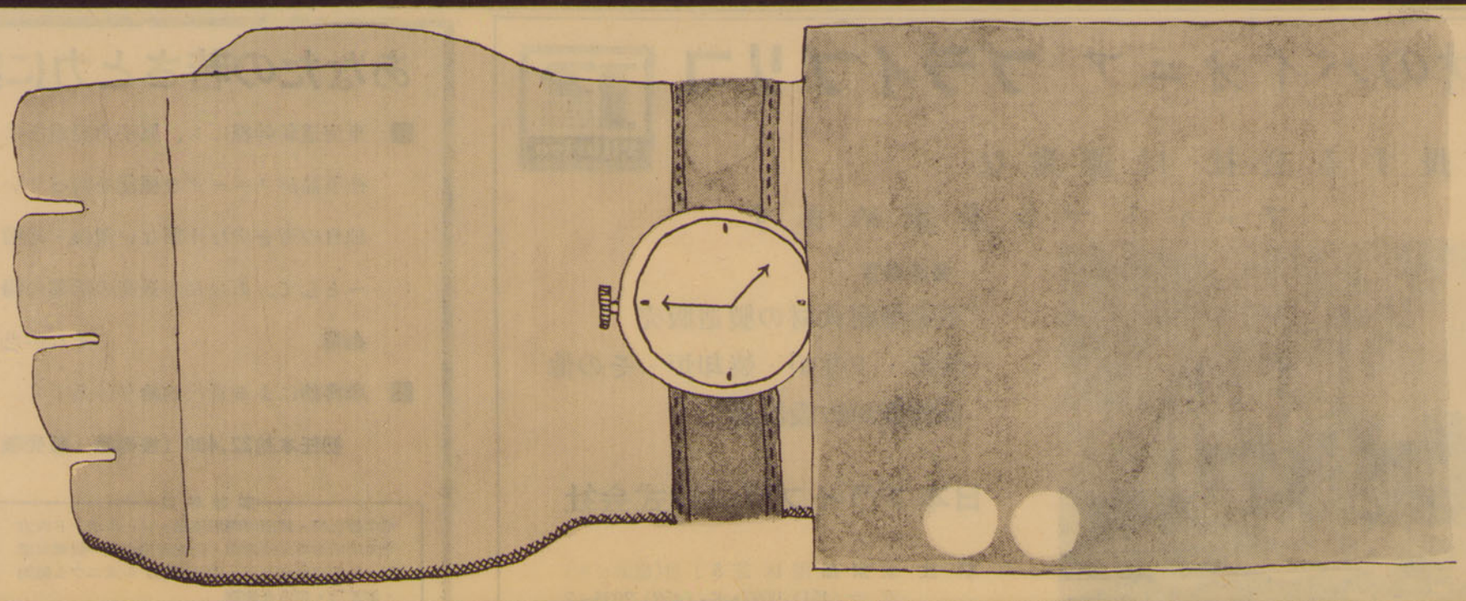
「保健友の会」は実質的授業料値上げに断固反対し、我々の死活の問題として学校に重大な提案をし要求する。全学友は実質的授業料値上げを正しく見破り正確な授業料の明細（特に休学授業料の明細）を要求し、各サークルで討論していただきたい

要求

一、休学生の授業料は全額無料とする。
一、授業料値上げ問題は学生と事前協議する。
一、学校は休学願い許可の公正な協議機関を設け、学生部は休学生に注意し、責任ある態度で休学生への態度を確立する。

立教大学「保健友の会」

時計・貴金属はサトウのダイヤモンドチェーンへ



●どこの店でも同じだという考え方は危険です。時計、貴金属類は専門店で経験ある人の手からお求めになることが大切です。アフターサービス保証付など、店によって異るものです。
●サトウは更にビフォアサービスとして、お客様のよきご相談相手となり、よい品を選んでおすすめ致しております。専門家がよく調べた上でなければケースに展示致しません。
●交通便利な所に十一店！新宿ステーションビル池袋ショッピングパークにも開店致しました。
●三十年間の実績をもつ老舗が近代的な感覚をもって選んだ品数が豊富。信用出来、信頼される店としてサトウは発展して参りました。
●是非一度お立寄り下さい。必ずご満足頂けることと存じます。
●ダイヤモンドチェーンは池袋ショッピングパーク、新宿駅ビル、新橋センター、錦糸町駅ビル蒲田駅ビル、横浜駅ビル、鶴見、子安、上大岡京浜デパート、川崎駅ビル、追浜の十一店です

株式会社佐藤時計店
本店　横浜市鶴見区京浜鶴見駅隣

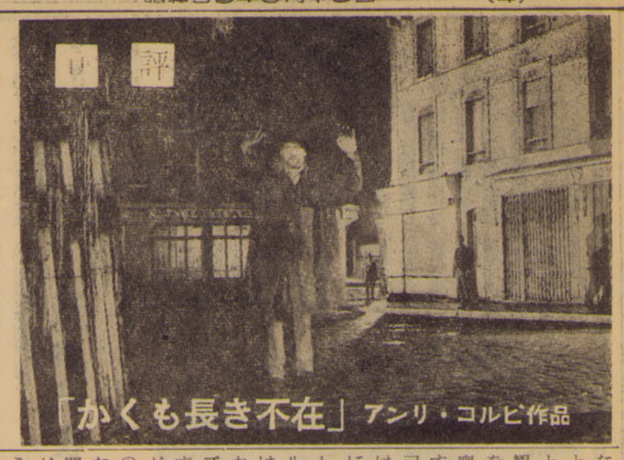
意識内部にひそむ〝空白〟との闘い

七月一四日の革命記念日（パリ祭）前後をさいわいとして、パリは重苦しい夏場をむかえる。三々五々運動地へ出むいたりヴァカンスを楽しんだりで、都市のメカニズムは、熱っぽい倦怠のなかで〝空白期〟に入る。この虚ろな時間の蠢動のなかで、意識内に存在する〝空白〟観念をえに現実の生活が虚像としか写りえない二人の主要登場人物の偶然の邂逅を契機としてこの〝あるエピソード〟は発展していく。以下、女主人公テレーズ・ラングロワの言動を過程的に追いつつ、彼女が自己の〝空白〟を埋めようとする闘いの様相をみてみよう。

夫が一九四四年、ナチに拉致され、収容所から脱出したまま、生死不明であるという過去を持つテレーズは現在（一九六〇年）パリ西郊の場末ビストロでカフエを営んでいる。彼女の日常生活は決まりきった循環を示し、それ自体としては、何の変哲もない倦怠の生活といえる。三十女のあり余る情欲の対象としてあるピエールという若い漁夫をも含めたすべての彼女の日常生活は、過去の一時期を画して横たわる不連続線のために彼女にとっては虚的生活としか思えない。戦争もナチの恐ろしさもそれ以上に彼女の「夫」であった人の記憶も、すべてを捨象し去ったところで、淡々として進行する惰性的な日常のなかに惰眠を貪ぼり、生理的な充足に身を横たえて生きることは彼女にとってはあまりにも大きな〈空白〉なのである。

〈空白〉は歴史を切断する。彼女の現実体験が実像として彼女の自負心のなかで有意味性を持つためには、今や彼女にとっては全的な生命の総然体験になっている夫との充足した過去の愛と現実生活との架橋を探し出して、この空白観念を現実の中から取り去る作業を回避することはできない。配置喪失の苦痛者の出現と、彼が体現する〈空白〉は、彼女にとって自己全脈的の連続性なかへ位置づけ、自分自身の存在を確実なものにしようとする闘いへのプレリュードとなる。浮浪者が彼女の夫アルベールであるかどうかが問題ではなく、浮浪者の虚ろな目が語りかける彼自身の『空白』がテレーズ自身の内部にある空白意識に対する強い刺激として存在したことが問題である。彼の出現は、過去の充足した愛の体験を現実意識のなかに喚起させようとする彼女の闘いの過程としてあった。浮浪者が彼女の夫であることを確信しようとするテレーズの不断の闘いのなかで、かつての夫への愛は、稀薄化しようとする彼女の現存在のなかでの〝自我意識〟へ必死にとりすがろうとするエゴイスティックな闘いへと変質していく。彼女はさまざまな作をしつつえながら浮浪者が自分の夫であったという片鱗を見つけようと執ように彼との奇妙な接触を続ける。それは自らの存在の不確定さを背負う人間同志の「愛」に他ならない。これは「恋愛」である。テレーズは浮浪者との〝恋〟の中へ必死に自己の存在への、自我の存在への証言を求めようとする。お互いを恐る恐るまさぐりあいながら、もどかしい陶酔が二人のあいだに芽生える。けれども浮浪者とシャンソンに合わせて踊りながら、テレーズは冷酷な現実に引き裂かれるようなうめきを発する。

ラスト・シーンで語るテレーズのこの言葉は、真実の愛と人間の不在にまともに対峙しながら、何かをしなければならない現代を厳しく射抜いた視点といえるのではないだろうか。（N）アートシアター上映中


「かくも長き不在」アンリ・コルビ作品

沢井さんのこと

学生部長　大須賀潔

沢井さんがロンドンでの研究を目指して出発されたのは七月末であった。私は夏休み中方々に出張したが、その間時々、最初の寄港地はコペンハーゲンだと、いまどのへんかな、など仕事の合間に思い出して、その旅姿を思い浮べていたのだった。仕事も終りに近く、軽井沢での合宿中に、学校からの電話で、沢井さんがチューリッヒでとなられたと知らされたとき、二年ぐらいのかた、脚を折って二、四ヶ月、風邪で一週間ほど休まれ以外、休講ということのなかった人のことであれば、私は耳を疑わないではいられなかった。

沢井さんは、私にとっては、同学の先輩であり、同僚であった。しかし、私も、他の方々と同様、人生その活動期としての三分の一については、殆んど知ることはない。私が知っていることと言えば、僅かに、その外廓の一部にすぎないと思う。

私は、立教大学外での沢井正治という人については何も知らない。沢井さんは昭和十年立大哲学科を卒業されて、直ちに、更に研究を続けるために、東京文理大に進まれた。立大でお目にかかるようになったのは、私の次のクラスで議論を講ずるようになられた、昭和十三、四年頃からだろう。私はそのうちに卒業し、昭和十七年からは同僚として働いてきたわけである。その間、沢井さんは武蔵野音楽学校、東京商船大学、母校文理大などでも教えておられたようだった。学生として沢井さんに一番親しんだのは橋田武君で、お宅に押しかけて、独逸語のテキストを読んでもらったりしていたが、彼も、いまはない。

沢井さんの研究生活は、はじめ哲学的人間学の方向であったようだ。卒論が、そのようなテーマであったし、昭和十年頃、「理想」の懸賞論文に応募されたが、そのテーマも人間存在の問題であった。この論文は、時の審査員の人三木清氏によって、論理的構成能力が高く評価され、選外佳作となったものだった。終戦まで、この方向のテーマが追求されていたようであり、ヤスパースの「実存哲学」の訳稿の出版を計画されたことがあったようだが、果されなかった。終戦後、東大で開かれたアメリカン・セミナーへの出席を機会に、論理実証主義科哲学への方向がとられる。早大の植田清次氏たちとの共同研究が、幾冊かの書物となって残されている。

沢井さんの生活は全く派手という言葉とは縁のないものであったが、奥様の証言によると、その地味さは、日常の食事まで奥様の手を煩わさなければ出来ないほどのものであったとか。しかし、その書かれた論文のテーマは、案外今日的であった。たとえば、「カントにおける形而上学的人間」、「メクト・エチカについて」など、哲倫の仲間が、ささやかな出行会をしたとき、二次会の魔の手を、風の如く素速くのがれた手口などは、仲々であった。

八月末、F君と奥様を訪ねた時、旅行の品々の中に見出された一冊のノートを見せられた。それには、多くの哲学者の名前が、何の註釈もなく書かれていた。おそらく訪ねるつもりだったのだろう。そこに書き列ねられた人名が、いま、私の心に何か問いかけているようでならない。

小パーティの誇り

福田宏年

ヒマラヤ遠征から帰って、よく人に訊かれることは、「向うでは隊員同志のイザコザはあのませんでしたか」ということである。とよく聞かれるところを見ると、他のパーティーではイザコザが普通のことであったのかと思いたくなる。

事実そういう話もチラホラ耳にしないこともない。しかしながら今度の立教のパーティーに関するかぎり、そうした葛藤はまったくなかった。

五千メートル以上で下ってきたベース・キャンプまでの雪と氷の中の生活というのは、いわば一種の極限状況だから、角突き合いが起ることは充分考えられる。特に隊員にとっては、ヒマラヤ遠征というのは長年の夢の実現だから、誰が登頂隊員になるかということは最大の関心事である。聞くところによると、他の隊では、いったんハイ・キャンプに取り付いた者は、どんなに体調が悪くとも、しがみついて下に降りようとしない、といったような話も聞く。

しかし、こんどの場合そうした取り付いた者は、どんなに体調が悪くとも、しがみついて下に降りようとしない、といったような話も聞く。

しかし、こんどの場合そうした事は全然なかった。たとえば、ベース・キャンプで重病になった。医療係は食隊員である。ところが大食倉は頂上を目指して六〇〇メートルの地点に進していたが、だが大食倉は一言の不平も言わず、黙ってベース・キャンプまで下ってきた。どんな理由であれ、クライマーが頂上を目前にして下るというのは、耐られない思いだろう。

隊員の団結がよかったのは、ひとつには、リエゾン・オフィサー（ネパール政府が遠征隊に随行させる連絡将校）のせいもある。つまり、私たちの隊の連絡将校のビスタ君が、あまり質のよくない男で、隊員の欲求不満がすべてこの男に向けられたという意味があったと、誇りに思っている。

普通、連絡将校は、若い大学生や、大学卒の失業青年が政府から指命されることが多い。一種の失業救済である。連絡将校は、装備、食事を隊で支給して隊員扱いを受けた上に、月給も隊から出す。ビスタ君はカトマンズのカレッジの経済学部を卒業した経済学士であるが、この間に渡す失業をつづけて直すものだから、シェルパたちが嫌がるのも当然である。

彼はインテリらしく日本の現状に関心を抱いていて、いろいろと日本のことを聞いてくる。「ネパールと日本ではどれくらい差があるか」と聞くから、「少くとも百年は遅れている」というと、とてもガッカリした顔をする。その実百年の開きはカトマンズの話で、山間部落に行けば原始時代同然のことがあったようだが、果されなかった。終戦後、東大で開かれたアメリカン・セミナーへの出席を機会に、論理実証主義科哲学への方向がとられる。早大の植田清次氏たちとの共同研究が、幾冊かの書物となって残されている。

沢井さんの生活は全く派手という言葉とは縁のないものであったが、奥様の証言によると、その地味さは、日常の食事まで奥様の手を煩わさなければ出来ないほどのものであったとか。しかし、その書かれた論文のテーマは、案外今日的であった。たとえば、「カントにおける形而上学的人間」、「メクト・エチカについて」など、哲倫の仲間が、ささやかな出行会をしたとき、二次会の魔の手を、風の如く素速くのがれた手口などは、仲々であった。

八月末、F君と奥様を訪ねた時、旅行の品々の中に見出された一冊のノートを見せられた。それには、多くの哲学者の名前が、何の註釈もなく書かれていた。おそらく訪ねるつもりだったのだろう。そこに書き列ねられた人名が、いま、私の心に何か問いかけているようでならない。

会告

第七回 新聞学会賞 懸賞小説募集

第七回懸賞小説募集を左記の要項で行います。募集要項は次の通り

一 小説
一 枚数　四百字詰原稿用紙三十枚以内
一 資格　本学学生（大学院も含む）
一 締切り　昭和三九年九月三〇日
一 発表　本紙十一月一日号
一 賞金　一等二篇二万円　佳作数篇一千円
一 選考委員　小田切進、村松剛、小松伸六、野口定男、駒田信二、福田宏年（敬称略）

▼版権は本学会に属する。▼ペンネームの使用自由。担当本学会事務部年末迄の予定。

立教大学新聞学会

夏休みに合宿

学館運動の動き

六月十八日に開かれた学館、生協設立の為の第二回学内集会には約四百人を集めて予想外の好成績を収めたが、そのあげた成果目体運動に持ち込む事は出来なかったようである。その理由は夏季休暇がすぐ後に控えていた事による事務の停滞、学校側との交渉の中休みという点にあげられる。しかし準備委員会としては今までの長い活動をふり返ってみて、学校側から二千万円の費用がおりた事、学生部が学館設立に対して研究を始めた事などから、学校側を動かしたと考えて、かなりの効果をあげ始めているとみている。

また、いつの場合にも問題になる一部学生だけの運動に終始しないかという論議に対して準備委員会が意識していることは、クラス単位、サークル単位の二つを通して学生の関心を呼び起す事と共に更に三部会（体育会、クラス委員会、サークル）との結着を目指すことであるそれに委員会は休暇中に管理運営等の具体案を検討して、学校側との対立点が明確になる九月以降にそなえており、それに九月十六日に開かれる予定の教授、学生、大学院を含めた学館問題懇談会に多くの学生の集まりを期待して運動が更に盛り上がる事を望んでいる最後に、川妻準備委員長は、「今出している要求が最低の線で、これ以上の妥協の余地はない。この要求を絶対に実現してみせる」と語っている。

英会話
▲教師陣は教養ある外人のみ
▲個人教授から最高6人迄の小級制
▲9年の長い教授経験を有します
▲入学は随時です
▲録音室、冷暖房完備
アイ・エス・スタジオ
池袋東口三井銀行横　Tel 971－2450

コムバ・会合にはおいしい
〝蒔田寿司〟
TEL 本店（971）2047　分店（982）8419・2457

米会話　10月5日開講（受付中）高田馬場　駅前スクール　バス停前右入る
ロイヤル米会話学院
専修科・予科・女性教室　TEL（361）5242（386）2169

落着いてお食事出来る！
純粋の中國料理
北京亭
別館池袋西口・シネマロサ前
TEL（982）2213・3433・8200
本店は区画整理の為休業中
来春竣工予定

■新聞学会室にて発売中
手形法講義案（改訂版）　経済学部　三年用　¥二五〇
商法講義案（改訂版）　経済学部　三年用　¥二五〇
経済学部　四年用　¥二〇〇
（須之内教授述）
＝立教大学新聞学会編＝

〝国際的に信用あるダンススタジオ〟
永吉ダンス教室
優秀な教師陣と懇切丁寧な指導
初心者上級者共に歓迎します
経営者　永吉彰
理事　日本社交舞踊教師教会
フェロー　I・S・T・D　イングランド
フェロー　O・T・A　〃
〃　Q・R・D　オーストラリア
委員　U・D・S・O（ニッポン・アメリカ・カナダ・オースラリア・ニュジーランド・フランス・ドイツ・フィンランド）
池袋2丁目1250番地　TEL（971）9541

高級純喫茶　新開店
ふる里
△モーニング・サービス　9：00～2：00
△ステレオ演奏
〝学生のたまり場〟
立教通り

喫茶　化粧品　電気器具　紳士服　生命保険　火災保険
立教学院事業部

taka-Q
西口本店・追分店・中央口店
西口会館店・新宿駅ビル店
〈新宿〉紳士服の高久
知性のシルエット
男の深みというか、切れ味というか……そんなものを感じさせる高久の代表作―ソシアル・ルック。
コクのあるダークトーンが基調。グンとひきしまった男の魅力を表現しました。
オリンピックを迎える東京にふさわしいフォーマルな装いです。

耐火材のパイオニア　プライブリコ
成長する会社は優秀なファイトマンを求めます
営業品目
不定型耐火材の製造販売
汽缶・工業炉・焼却炉・その他各種築炉の設計施工
日本プライブリコ株式会社
本社　東京都港区芝5丁目（徳栄ビル）
電話（451）9097～8・（452）2035～7
出張所　大阪・福岡　工場　茅ケ崎
（東京電力横浜火力発電所全景）

あなたの若さと力に期待！
■東海道新幹線にも、原子力発電所にも、当社製品がユニークな機能を誇っています。独自の道を歩む比類ない電機・造機メーカーとして、あなたの最高の活躍の場となる企業――それが当社です
■職務給による近代的給与体系です。
初任本給22,400（技術職・販売職）
入社ご希望のかたは本社にお問い合わせください。
基幹産業をささえる
製造品目
電車線金具・鉄道車両用部品・レールボンド火力発電所用管系支持装置・送電線用金具一般電気部品・船舶用機械部品・繊維用品アルミニウム鋳物・銅鋳物・銅合金鋳物
三和鉄軌工業株式会社
資本金1億円　創業1904年
■本社
東京都品川区南品川5－58
電話東京491局5111（代）・2118（代）
■出張所
大阪・福岡・名古屋・札幌
仙台・長崎・広島・新潟